

修士論文 特別研究のチェックリスト

学術的および社会的意義のある主題を取り上げ、その主題を先行研究において位置づけ、主題にふさわしい方法によって検討し、学術的にも社会的にも意義のある成果を創出した研究論文

論文の評価基準	評価			
1. テーマ設定の明確性 ・ 明確な問題意識に基づき、テーマが設定されているか。 ・ テーマの探究に適したリサーチクエスチョンが明確に設定されているか。 ・ 先行研究を十分に検討し、自分の研究を適切に位置づけているか。	4	3	2	1
2. 研究方法の妥当性 ・ 研究の目的に照らして、妥当な研究方法が用いられているか。 ・ 研究方法の示し方が十分かつ明確であるか。 ・ 分析方法は妥当であるか。 ・ 研究倫理の確保について明確に記述されているか。	4	3	2	1
3. 結果・考察 ・ 量的研究の結果は、図表を含め適切かつ明確に示されているか。 ・ 質的研究の結果は、十分に分析され説得力をもって記述されているか。 ・ 考察は、結果に基づいて議論され、説得力をもって記述されているか。	4	3	2	1
4. 論旨の一貫性 ・ 研究目的、研究方法、結果、考察までの論旨に一貫性があるか。	4	3	2	1
5. 構成・表現・表記法 ・ 修士論文作成に関するガイドラインに則って作成されているか。 ・ 学術論文として体系的に構成されているか。 ・ 文章は文法的・語法的に正しく、明確かつ適切な表現で書かれているか。 ・ 誤字、脱字、口語表現の混入はないか。 ・ 図表は、適切な位置に配置され、適切な番号、タイトル、注釈がついているか ・ 引用文献は、必要な書誌情報が網羅され、規定どおりに記載されているか。	4	3	2	1
6. 貢献度 ・ 学術的貢献、社会的貢献をなす成果を創出したか。	4	3	2	1

(※) 評価 4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

最終試験実施要項

1. 提出された修士論文の内容についての質疑応答
2. 論文作成にあたって行われた具体的研究活動についての質疑応答
3. 研究成果のさらなる発展の可能性についての質疑応答
4. 修士としての専門知識の有無を問う質疑応答

上記観点から試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A：優れた研究が行われ、社会への貢献と今後の発展が期待できる成果が創出されたと認められる。
- B：おおむね良好に研究が行われ、有用な成果が創出されたと認められる。
- C：不十分な点がいくつかあるが、着実に研究活動が行われ、一定の成果が認められる。
- D：適切な研究が行われたとは認めがたい。

修士論文審査および最終試験を総合してDの判定がつけば不合格とする。